

# 石川町資源調査調書

通し番号	55	整理番号	5	-	006	作成	平成19年2月
名称	石都々古和気神社の鰐口				項目	史跡	
管理	住所	石川町字下泉150					
	連絡先	TEL 0247-26-7534					
	管理者及び所有者	宮司 吉田英高					
概要	<p>石都々古和気神社が所蔵する応永30年(1423)銘のある銅製鰐口で、石川地方では最古のものである。鰐口とは神社や仏堂の軒下に懸け、参拝するとき打ち鳴らす金属性の金鼓のことである。この鰐口は面径が34.1センチ、総厚が13.7センチで鏡帯に「奥洲石川庄泉村館之八幡宮之鰐口也 応永卅年癸卯卯月5日大旦那源持光別当重慶敬白」と彫られている。持光は石川駿河守義光の嗣子で、石川惣領の立場にあった。小豆畑毅氏(「板橋氏の盛衰と沢古屋館跡」「沢古屋館跡発掘調査報告書」1997)によれば、持光は応永28年9月に「石川郡神やくの事」を神官吉田治部少輔に申しつけて、同30年に、「館之八幡」(石川城内の八幡神社)へ鰐口を寄進した。このことは、これまでの川辺八幡宮(玉川村大字川辺)に代わる氏神の設置と一族板橋氏に代わる神官の委任を意味し、惣領の権力を強化しようとする持光の政策であると述べてる。</p> <p>昭和28年10月1日 県指定重要文化財に指定</p>						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻						
関連項目	石都々古和気神社(4-001) 石川氏(8-001)						
備考							
写真及び位置図等							
							
鰐口				位置図			



# 石川町資源調査調書

通し番号	56	整理番号	5	-	007	作成	平成19年2月
名称	アンヨウジ セキゾウトウバ 安養寺の石造塔婆				項目	史跡	
管理	住所	石川町大字沢井字東内打305					
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137					
	管理者及び所有者	安養寺					
概要	<p>安養寺にある石造塔婆は、安山岩質凝灰岩製で碑面に彫られている仏の姿から、線彫阿弥陀三尊来迎塔婆と呼ばれ、碑面中央に来迎印を結び二重の頭光を負った阿弥陀如来立像が顔を前に傾けて立ち、踏み割り蓮座に乗ってる。その右側膝の辺りからは蓮台を捧げ持った観音像を、左側に合掌する勢至像を、中尊と同じく二重の頭光のもとに並び立ちともに頭を傾けて右方を見つめている。弥陀の白毫から発する二条の光明は次第にその幅を広げて照らし、石面の右辺に至る。その光明の下に合掌跏坐する念仏行者像が、小さく陰刻されている。この形式は死者を極楽浄土の世界に導く姿を表している。</p> <p>この塔婆の特徴的なことは、浮彫と線彫の両形式が一体化した技法が用いられていることである。また阿弥陀如来像の上半身両側に「應長2年壬子 正月廿日」の紀年銘があり、應長の部分は、朱で彩色されている痕跡が残っている。應長2年（1312年）は鎌倉時代後期であり、中世の当地方の歴史を明かす上で貴重なものである。</p> <p>平成8年6月1日 町指定文化財に指定</p>						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻						
関連項目	安養寺（3-001）						
備考							
写真及び位置図等							
 <p style="text-align: center;">石造塔婆</p>				 <p style="text-align: center;">位置図</p>			


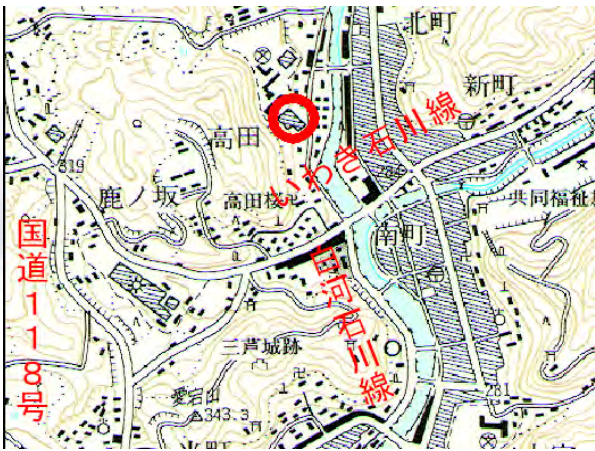
# 石川町資源調査調書

通し番号	57	整理番号	5 - 008	作成	平成19年2月
名称	ワグセキノウトウバ 和久石造塔婆		項目	史跡	
管理	住所	石川町字和久299			
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137			
	管理者及び所有者	鈴木健一			
概要	<p>ここにある石造塔婆には、線彫阿弥陀一尊・線彫阿弥陀三尊・浮彫阿弥陀一尊などの仏像が碑面に彫られている。線彫阿弥陀三尊来迎塔婆は、碑面中央の空間いっぱいに三尊像を刻み、頭光を彫り窪め、その中に頭部を陽刻し、弥陀の白毫から発する二条の光明が石の右端まで伸びている。この形式は死者を極楽浄土の世界に導く姿を表している。線彫阿弥陀一尊塔婆は、二条の切り込み線が三面を廻り、三尊来迎塔婆と同じ手法で阿弥陀如来が彫られ蓮座の上に立ち、全体に彩色が施されている。このような線彫りの技法は関東地方に多く見られる形式である。</p> <p>浮彫阿弥陀一尊塔婆は、阿弥陀如来坐像と蓮座が一体的に陽刻され、衣文と蓮座はともに線刻で表現されている。この形式は特に岩瀬地方に優れたものが多く見られる。三基とも安山岩質凝灰岩製で、石川町の仏像が彫られている塔婆は線彫が主流だが、この和久塔婆群の特徴は、浮彫と線彫の両方の形式が見られることである。いずれにせよ石川地方の中世史を明らかにする上で貴重な塔婆である。</p> <p>平成8年6月1日 町指定文化財に指定</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻				
関連項目					
備考					
写真及び位置図等					
					
石造塔婆			位置図		

# 石川町資源調査調書

通し番号	58	整理番号	5 - 009	作成	平成19年2月
名称	タテキソウゴリントウ 館石造五輪塔		項目	史跡	
管理	住所	石川町大字沢井字館81			
	連絡先	TEL 0247-26-7534			
	管理者及び所有者	円谷真			
概要	<p>五輪塔のある丘陵一帯は中世の石川氏一族、沢井氏と関係のある沢井城跡である。沢井氏は鎌倉時代から歴史上に登場し、この五輪塔も沢井氏の造建によるものと推定されている。</p> <p>石造五輪塔は平安時代以来のわが国特有の石造建造物であり、最初追善のための供養塔として発生し室町時代以降墓石として一般化したといわれている。五輪塔の形態は下から地輪(方)・水輪(球)・火輪(三角)・風輪(半球)・空輪(宝球)が積み上げられている。</p> <p>この館五輪塔は、空・風輪は一石(後世の制作)、火・水・地輪は別石で組みあわせてある特徴的なことは火輪の軒反り、軒勾配、軒厚に古式五輪塔の面影が濃く残されている。また地輪も上部がせばまって、下部が広く扇状となるなど、古式五輪塔より崩れた形式の五輪塔に移行期の姿を示していることから、鎌倉時代末期から南北朝時代初期の造立と見られている。いずれにせよ中世における石川氏の仏教文化水準の高さを示しており、このような大型で古い形式を残している石造五輪塔は、町内では例がなく貴重なものである。</p> <p>平成8年6月1日 町指定文化財に指定</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻				
関連項目					
備考					
写真及び位置図等					
					
石造五輪塔			位置図		

# 石川町資源調査調書

通し番号	59	整理番号	5 - 010	作成	平成19年2月
名称	ヤクオウジ ハンギ 薬王寺の版木		項目	史跡	
管理	住所	石川町字高田200-2 歴史民俗資料館			
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137			
	管理者及び所有者	鎌田弘史			
概要	<p>医王山薬王寺(字大室)に伝わる版木である。仁王般若経版木は縦28センチ、横57センチで末文に「正慶元年(北朝・1332年)壬申九月廿九日願主悉地金剛頼辨」の銘がある。妙法蓮華木は縦26.3センチ、横80センチで末文に「助縁養堂醫公大禪定尼、奥州白川小比丘妙英、命工版行額以一貫、康暦二年庚申(北朝・1380年)重陽(陰暦九月九日)、東奥佛法弘通檀林石川薬王寺大坊蔵板、康暦二年庚申九月筆者白川小比丘妙英」とある。</p> <p>この版木の存在から、薬王寺が鎌倉時代末期から室町時代初期にかけて、さかんに経文を印刷し、布教活動を行っていたことがわかる。このような経文の印刷は鎌倉時代に宋版の書籍経文がもたらされた影響と見られ、福島県ではいわき市白水阿弥陀堂に版木の断片があるにすぎない。仏教史上及び印刷史上からも非常に貴重なものである。</p> <p>昭和28年10月1日 県指定重要文化財に指定</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻				
関連項目	薬王寺(3-016) 歴史民俗資料館(11-001)				
備考					
写真及び位置図等					
					
版木			位置図		